



**写真等無断転載禁止**

## 第2回谷津田めぐり参加報告

坂月川愛好会 千葉県若葉区 勝又 紳一郎

2025年2月24日の第1回谷津田めぐりに続き、4月13日に第2回谷津田めぐりが開催されました。今回は下大和田谷津田、小山町谷津田、小山町観音地の3か所を訪問しました。それぞれで保全活動に携わっていらっしゃる方々からご説明をいただき、それぞれの活動の実際を知ることができました。

### 1. 下大和田谷津田

＜若葉区中野町～緑区下大和田町＞

鹿島川水系、NPO 法人 ちば環境情報センター

私は初めて訪問します。東金街道中野操車場近くの駐車場から徒歩で南に向かい、千葉東金道路のトンネルを抜けると、大きな谷津に出ます。鹿島川の最上流部に位置し、南北を樹林帯に囲まれて、水に恵まれた広い葦原がその間に続いています。少し東に行くと、ちば環境情報センターさんが活動するエリアになります。

2023年度末に、新たな開発計画が持ち上がり、2024年度は稲作を断念せざるを得なかったそうです。1年間手入れをしないとたんぼは自然に飲み込まれてしまうという姿を見て、改めて里山は人の手入れが必要であることを感じました。現在、新たなたんぼを復田中とのことです。



千葉東金道路と谷津の間の森林部も見学させていただきました。ニホンリスの生息が確認されたことからクルミの苗木を植える活動を始めたそうです。リスが定着するといいですね。

### 2. 小山町谷津田

＜緑区下小山町＞

村田川水系、NPO 法人 ちば環境情報センター

西側の高台はあすみが丘の住宅街。東側の台地は昭和の森から樹林帯が広がり、低地はあすみが丘水辺の郷公園から長い谷津が続いています。

赤シャツ親父さんから説明をうかがいました。谷津に集落があり、古くから稲作がされてきましたが、高齢化や後継者不足が課題になっているそうです。



休耕田を復田したり、地元の方のたんぼを引き継いだりして米作りを中心とした活動を行っていらっしゃいます。地元の小学校が学校たんぼで行う米作り体験の支援もしていらっしゃいます。一帯の水田は水が豊かで、暗渠を多量の水が流れていました。たんぼから流れ落ちてしまったオタマジャクシがたくさん見られました。この一帯にはYPP以外にも米作りのグループが活動しているとのこと。この一帯の里山そのものの景観と生物多様性をみなさんと維持していただきたいと思います。

### 3. 小山町観音地

＜緑区小山町＞

村田川水系、特定非営利活動法人 緑の環・協議会

小山町谷津田南側の台地上を切り切った丘陵地が活動エリアです。アザミ谷津とゴウシ谷津に囲まれたところで、もともと谷津の水源涵養林であった丘陵地ですが、違法な山砂採取によって、クレーターのような大穴が開けられました。これを元の水源涵養林に戻そうと苗木の植林を続けていらっしゃいます。

森林復活に向けていろいろ工夫して活動을呼びかけ、実行されてきました。今では多くの若い木が育ち、緑の台地になりつつあります。台地上のため

に苗木に必要な水がなく、井戸掘りを2年かけて完成したそうです。



小さな池にニホンアカガエルのオタマジャクシが泳いでいました。今年から井戸の本格運用が始まるとのこと。生物多様性が進むことと思います。見学の最後に、シイタケ栽培の収穫体験もさせていただきました。

#### 4. おわりに

日頃、谷津田グループの会合でお会いしていましたが、みなさんが活動している現場を全て知っているわけではなく、お話の内容がわからなかったこと

が多くありました。今回、6か所の谷津田をめぐり、実際に活動されている方々と直接お話をさせていただき、推測から実感になりました。



谷津田めぐり参加者一同(2025年4月13日)

「自然が豊かな」という接頭辞が、今後も若葉区と緑区につけられるよう、みなさんといっしょに活動を進めていきたいと思っています。相互訪問の企画推進をしていただいた小西さまに厚くお礼申し上げます。

## 生物多様青年の春休み活動報告

### ～市川市の人工干潟計画に向き合って～

東邦大学 理学部 生命圏環境科学科二年 千葉市若葉区 鈴木 郁也

市川緑の市民フォーラム事務局長の佐野郷美さんとのご縁で、昨年度から市川市の人工干潟計画の反対運動のお手伝いをさせていただいてきました。大学が春休みに入ってから2月3月は、昨年12月から募集していた署名運動も大詰めとなり、駅頭アピールやシンポジウムなどで何度も市川市へ足を運びました。今回は、私の春休みの活動の一部を、簡単にではありますがご報告したいと思います。

2025年2月24日・3月9日・3月22日  
市川緑の市民フォーラム 駅頭アピール in JR本八幡駅・市川駅

過去のニュースレターでも告知していた「市川市の人工干潟計画の中止と江戸川放水路に今ある自然干潟の整備を求める署名」の駅頭アピールを見学しました。市川市の人工干潟計画の中止を訴える演説の様子はYoutubeにアップしましたので、右記QRコードからご視聴ください。



動画を編集する際に、演説者のお話を何度も巻き返して反芻する機会がありました。人目を引く特別なパフォーマンスはなくても、話の筋を通して道行く人々に訴えかけていく熱意は、動画越しでも胸を打つように感じさせられました。

た。一日一時間で集まる署名数は決して多くはありませんでしたが、市民の意識に訴えかける有意義な市民活動なのだと思います。

2025年3月30日

三番瀬人工干潟シンポジウム in 市川文化会館

市川文化会館地下ホールで開催された三番瀬人工干潟計画を考えるシンポジウムは、私にとって人生で初めて参加するシンポジウムでした。会場は100人以上の超満員で、椅子が足りず立ち見で聴講される方もいました。



シンポジウムの前半は日本湿地ネットワーク事務局長・三番瀬を守る連絡会代表世話人の中山敏則さんと、市川緑の市民フォーラム事務局長・利根川江戸川流域ネットワークの代表の佐野郷美さんの報告

がありました。内容は、これまでの新聞報道や当ニューズレターにも投稿されたお話が中心でしたが、現在進行系の話や、問題が起こった遠因や背景など新しい情報もありました。特に面白く感じたのは、講演者が話の中で冗談や皮肉を言ったりすると、会場全体が笑い声や感嘆に包まれ、聴衆の感情があらわれることでした。後半は参加者による発言タイムで、三番瀬で活動する団体の方や、三番瀬の海に思い入れのある方が発言され、私もオンライン署名の呼びかけと江戸川放水路干潟に対する思いを喋らせていただきました。

2025年3月31日

### 江戸川放水路河口の自然干潟で生き物調査(地引網)

この日は、江戸川放水路の自然干潟の生物多様性をアピールする動画を作成するため、江戸川放水路で二人用の地引網を使用した生き物調査を行いました。大学の友人たちにも手伝ってもらい、股下までの水に入って網を引き、ボラやサッパの稚魚などのいつもの顔ぶれと、カレイの稚魚(イシガレイ・マコガレイ)や稚アユといった、この時期にしかいない魚を採りました。生き物調査の様子は右記QRコードからご覧ください。



令和7年4月27日

### 必見！江戸川放水路自然干潟-市民が海と親しめる干潟はすでにここにある-

大学が始まって一段落し、市川緑の市民フォーラム主催の観察会で再び江戸川放水路を訪れました。

GWの序盤の日曜日、気持ちの良い晴れ空の下、江戸川放水路の干潟はたくさんの利用客で賑わっていました。観察会の参加者の皆さんも干潟へおり、私は網をふるって水の中の魚を追いかけました。



何度か生き物調査のために訪れる中で感じたのは、江戸川放水路は干潟へ降りる道に転石やカキ殻が多くて足元が悪く、不法投棄やゴミの散乱も見られて、行政の管理が全く入っていないことへの不安でした。管理所を設けないことで開かれたフィールドであるメリットもあるかもしれませんが、市民が利用する場所の安全面を保証することは、街づくりにおいて行政の義務ではないのかと思いました。



## 新浜の話87 ～ 「1%支援事業」と「いきものマップ」 ～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

2005年、市川市は画期的な試みをはじめました。納めた市民税の1%を市民自身の意思でNPO法人や任意団体の活動に振り向けるというもので、援助したい団体を市民自らが指定できます。助成を受けたい団体は必要な支援額をあらかじめ申請し、2分の1を限度に助成を受けます。1996年にハンガリーで施行された1%法を参考に、当時の千葉光行市長が導入したものです。

1%支援事業が始まった年、友の会はこの助成金を役立て、「市川いきものマップ」という活動をはじめました。市民に対するアンケート調査を中心として、まず馴染み深いウグイスやツバメ、セミを取り上げました。市の鳥であるウグイスは市内で繁殖しているか。また行徳で増加しているクマゼミの進出や、減少が著しいヒグラシはどうか、といったことをメインとしました。ウグイスは柏井などでずっと居残って繁殖しているらしいこと、そして行徳では毎年ではないものの、この年

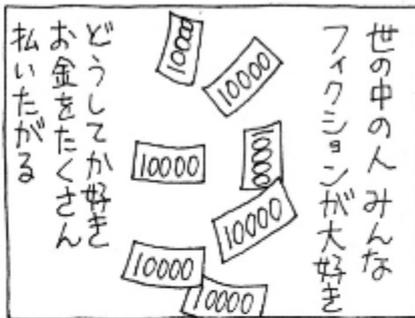
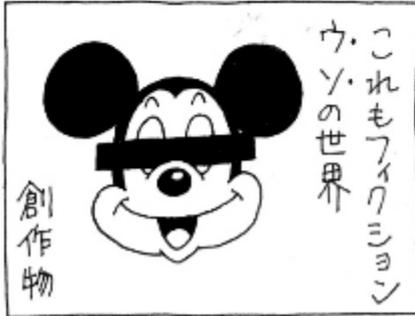
は6月までさえずり、後に初となるヒナの死体まで拾われて、市内での繁殖が確かめられました。森林が残る北部ではヒグラシは健在、一方クマゼミは全市にひろがってはいないことがわかりました。

意外だったのは、私には夏になくてはならないセミの声が、多くの人にはうるさいだけ、むしろ嫌われていること。こんなことがありました。桜にとまったアブラゼミに捕虫網に向けた家族連れ、30歳代くらいのお父さんが、飛び立ったセミに「ひゃあっ」と声を上げて逃げたこと。奥さんや子供さんは平気な顔でしたね。大きくて目立ち、にぎやかなセミたち。もっと好かれていると思っていたのに。

翌年テーマにしたのは「まぼろしのイモリをさがせ!」でした。佐野郷美先生や岩田孝明先生等、生物にくわしい方々から、市川のイモリは1980年代には姿を消した、と伺っていました。

# スロマン<sup>51</sup>

作:7味  
おぼに



申し訳ありません。ボクもガキニョの  
プラモデル持ってます。〈作者謹〉

農家の井戸や湧き水などで、もしかしてイモリが生き残っているのではないかと、  
というものです。あわせておなじみのヤモリがどのくらい身近なのかも見たいと  
思いました。住み込みで観察舎に働くようになってから 30 年、ヤモリの定着は 15  
年ほどたってから。ご近所からの移動でしょうか。マンションの 11 階にも住みつ  
いたものがあるとも。漢字では「守宮」と書くヤモリ。古い時代、唐から書物と  
ともに導入された帰化種とされているのもこの時知りました。

市川でのイモリの記録も若干ありました。ただ、ずっと定着していたものか、  
飼育されて逃げたものなのか、正確なところはわからずじまい。余談ながら豊島  
区の住宅地(新聞の写真記事)や文京区の私の実家でも数年前に猫が持ってきた、  
などという例も。

次の年は哺乳類をテーマに。行徳でタヌキやハクビシンが定着してきた時期。  
さすがに哺乳類は記録がむずかしく、思いがけない発見はなかったのですが、故  
事にある帝の寝所を騒がせ、源三位頼政が射落とした、という「鶴(ぬえ)」とい  
う怪物、「顔は猿、胴体は狸、尾は蛇、四肢は虎」の記載がなんとハクビシンの特  
徴にぴったり。「四肢は虎」だけが何とも不可解だったのですが、ハクビシンは爪  
を半分引つ込めることができるのです。それを含めると、どんぴしゃり。平安の  
頃に日本に入ったとしたら、目の仇にされる外来種とはちょっと違うかも?とい  
うのが面白かったです。翌年のツバメの分布調査の結果は興味深いものだったの  
で、次号にまわします。

2009 年のセミをさいごに市川いきものマップの活動は終了し、併せて市内の学  
校等にニュースとして送っていた「四季のたより」だけが続きました。画期的な試みだっ  
た 1% 支援事業も、しっかり市民の間に定着  
しないまま、2015 年に  
終了しています。

**<総会のご案内>**  
日 時：2025 年 6 月 7 日(土) 10 時~12 時  
会 場：土気公民館会議室(土気駅から徒歩 5 分)  
※総会資料は正会員に別便で送付します。正会員以  
外でもオブザーバーとして参加できます。事前にご  
連絡ください。

**<編集部からのお知らせ>**  
ニュースレター 2002 年 5 月号(第 58 号) から 23 年間にわ  
たり紙面にイラストを描いてくださっていた「こまちだ  
たまおさん」は、2025 年 4 月号をもって卒業ということに  
なりました。長い間ニュースレターと谷津田だよりに、季  
節感あふれる楽しいイラストをお寄せくださり、ありがとう  
ございました。これからも引き続き会員として、ちば環境情報センターをよろし  
くお願いいたします。なお、今月号からは、こまちださんの後を引き継いで Asa  
Okiru さんがイラストを担当してくださることになりました。Asa Okiru さんから  
以下のメッセージが 届いていますので、ご紹介します。



こまちだたまおさんから引き継いでカット絵を担当します、Asa Okiru  
(あさおきる)です。四季折々の自然を描いていきますので今後よろしくお  
願いします！”

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター 2025 年 6 月号(第 334 号)の発送を 6 月 6 日(金) 10 時か  
ら土気公民館にておこないます。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655) までご連絡ください。

あなたも入会しませんか.....キリトリセン .....

住所〒 \_\_\_\_\_

ふりがな \_\_\_\_\_  
氏名 \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

編集後記:今月号から紙面のカットを Asa Okiru さんをお願いす  
ることになりました。Asa さんはこまちださんと同じ東京藝術大学  
美術学部絵画科油画専攻卒業後、大学院で現代アートを学び  
ました。若さいっぱいエネルギーに満ちた方で、これからどんな  
自然を描いてくださるか楽しみです。こまちださんは 23 年間で  
未掲載を含めて 2500 以上のカットを描いてくださいました。季節  
感あふれる絵は、ニュースレターに無くてはならない「味つけ」に  
なっていました。長い間ありがとうございました。 mud-skipper

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。  
NPO 法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。(カット: Asa Okiru)



ので良いですね。自然の中の作業は気持ち良く癒されました。自然に感謝です！ 追記：YPP 田んぼでは畔の手入れや田起こしをしました。

参加者 11 名（大人 10 名、小学生 1 名）

☆令和 7 年度期 大椎小学校田んぼ田植え 2025 年 4 月 28 日（月）晴れ 報告：赤シャツ親父  
穏やかな好天の下、大椎小学校の田植えが行われました。今年の大椎小は児童が 25 人で少ないため、田植えの規模は例年の 1/2 に設定しました。一方でボランティアママさん、パパさん大勢の参加があり、さらに柳町さんの新兵器メジャーが登場し、万全のサポート体制でした。自然観察にも充分時間を設け、子どもたちとともにボランティアママ、パパさんも一緒に回りました。たくさんのおたまじゃくしやヤゴが出現し、子どもたちは歓声を上げて喜んでおりました。田植えでは、苗の成長は小さめで、最初は扱いが難しい様子でしたが、次第に慣れて、予定の田植えを無事終えました。最後に鳥獣対策の囲いを設けました。元気に育ててほしいと願うばかりです。

### 【谷津田・季節のたより】 2025 年 4 月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

4/20 田んぼの畔には沢山のオオジシバリ。その花にはツマキチョウのオス。この時期にしか見られないシロチョウ科の仲間。シオヤトンボのメスが田んぼの水の浅い場所にしきりに卵を産み付けていました。羽化したばかりのシオカラトンボが飛び立ち、まだ翅が乾いていないようで透きとおった翅がとても美しい。足元ではこれも羽化したてのアジイトトンボが数多く飛び立ちました。ウグイスがしきりに鳴いていました。

4/27 森にフジの花が咲く。青空に新緑とともに良く映えています。木の葉の上にとまるヤマサナエ。先程、U 字溝で見かけたヤゴの抜け殻の主でしょうか。ニホンカワトンボもヒラヒラと水路の上を飛んでいました。アシ原ではギョシギョシシシと独特のオオヨシキリが鳴いていました。南の方から繁殖をするために渡ってきました。春の主役たちが続々と登場します。谷津田はこの時期、一週間で大きく変化します。

＜小山町＞ 報告 た：たんぼぼ 高：高山邦明

4/4、22、26 目の前でヤマドリほろ打ち（た） 4/ 5 今季はじめてシオヤトンボを見る（高） 4/ 6 田んぼに卵を背負ったコオイムシがいた（高） 4/ 7 シュレーゲルの卵今季初確認（た） 4/ 8 ニョイスミレが咲く、ツバメの姿を初めて見る（高） 4/ 9 小山の農家、田植えはじまる（た） 4/11 シャガ開花（た）、コナラやクヌギが花を垂らす（高） 4/12 ウワミズザクラが咲き始める（高） 4/14 林縁の水路の上にカワトンボの姿（高） 4/16 サシバが飛来、渡りの途中のセンダイムシクイのさえずりを聞く（高） 4/17 渡りの途中と思われるヒヨドリの大きな群れをいくつか見る、ハシブトガラスが 2 羽、オオタカをしつこくモビング（高） 4/18 今季のアオジとクサシギの終認、ほぼ毎日姿を見ていたので寂しい（高） 4/28 シラユキゲンの花満開（た） 4/30 セグロセキレイの親鳥が田んぼで餌を集め、離れた民家の屋根にいる幼鳥 2 羽に何度も運ぶ、斜面林はフジの花で彩られている（高）

### 【イベントのお知らせ】 主催：NPO 法人 ちば環境情報センター

＜下大和田谷津田＞ 連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

#### ・第 310 回 下大和田 YPP 「緑米の田植え」

日 時：2025 年 5 月 17 日（土） 9 時 45 分～12 時（雨天の時は 18 日に実施）

内 容：4 月 5 日に種を蒔いた緑米の田植えをします。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

#### ・森と水辺の手入れ

日 時：2025 年 5 月 18 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：緑米田んぼの整備をします。森の手入れも行います。（5 月 17 日が雨天の時は田うえ）

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

#### ・森の手入れ

日 時：2025 年 5 月 25 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：森の除草刈りなど観察路の整備を整理します。

持ち物：動きやすい服装（長そで長ズボン）、森で活動できる靴、帽子、手袋、飲み物 参加費：無料

#### ・第 305 回 観察会とゴミ拾い

日 時：2025 年 6 月 1 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：緑深まる晩春の谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100 円

#### ＜小山町谷津田＞

#### ▼第 236・237 回 小山町 YPP 「田植え」

日 時：2025 年 5 月 31 日（土）、6 月 8 日 10 時 00 分～ ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田 ※問い合わせ等：ceic.ypp.oyama@gmail.com までお気軽にメールでご連絡下さい。

